

和牛の生産を支える 女性獣医師の一日



有限会社シェパード
獣医師
しいば あやか
椎葉絢香さん

実家の影響で獣医師に。 現在は産業動物の診療を行う

椎葉絢香さんが獣医師を志したきっかけは、実家が宮崎県椎葉村で黒毛和牛の繁殖をする農家だったこと。幼いころから牛に触れていました。「牛を育てるうえで、予防や治療は欠かせません。しかしながら、椎葉村のような山間地での診療は村外の人にとっては容易ではなく、獣医師が定着してくれません。『獣医師が村からまたいなくなる……』と嘆く父母を見て『だったら私が獣医師になる!』と思いました」

現在は鹿児島県にある個人開業の産業動物診療施設・シェパードで働く椎葉さん。1日の仕事は朝のミーティングから始まり、9時に診療を開始します。18時ごろまでの診療を終えたあとは、カルテや指示書などの事務作業を。月に10日程度は夜間当番があり、夜中でも診療に対応。そのほか繁殖検診、種雄牛検診、農場コンサルティングなどが月に数回入る多忙な毎日です。

大変なこともやりがいも多い 女性の産業動物獣医師

「大変なことは、牛にも男の人にも、力で負けることです。女性獣医師の共通の悩みですが、難産助産では『手が届かない、力が足りない……』と痛感することが多かったです。でも、そのおかげで道具や方法を工夫する診療スタイルを身につけることができました。自分の限界を常に知り、誰かに助けを求める勇気のほうが大事です」

逆にやりがいを感じることも多いのが産業動物獣医師の仕事です。農家の人が喜んでくれたときが何よりうれしい、と椎葉さんは語ります。

「治療によってなんとか出荷できる状態までいけたとき、農家さんから言われる『先生、ありがとう』の言葉にはいつも心がジーンとします。私が指導して受胎率が100%になった、以前治療した牛がA5ランクだった、と言われるとうれしくて、つい農家さんとハイタッチします(笑)」

小規模農家も日本の畜産を支えている。 いつかは地元のために貢献を

椎葉さんは、大規模に効率良く牛を飼うことだけがこれからの日本の畜産を支えていくとは思わない、と小規模農家に期待を寄せます。「それぞれがそれぞれの場所でオリジナルの和牛を育て、誇りを持った農家さんが増えていけばいいと思います。そのためにも、農場の衛生指導や飼養管理などのアドバイスもでき、常に農家さんの気持ちに添えるような獣医師を目指したいです。そして、いつか椎葉村に帰り、小規模農家を含め、地元の人のために貢献したいです」

毎朝のミーティングでは治療中の牛について報告し、治療方針を全員で検討する。



今日も元気に「MY診療車」で往診！勤務3年目、宮崎県出身の椎葉獣医師。



牛のお尻から検診中。肥育牛への直腸検査。



「牛の病態を分かりやすく説明し、農家さんの気持ちに添えるような診療がモットーです」

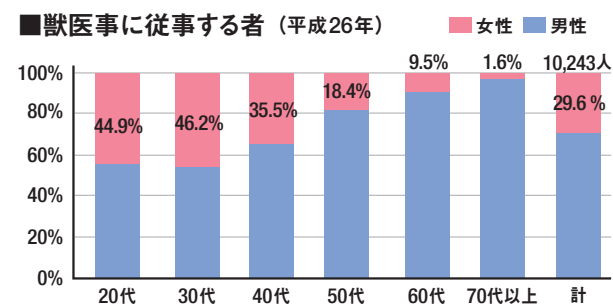


NEWS-1

畜産業を支える獣医師の 育成・確保を支援します



産業動物獣医師は安全で良質な畜産物の安定供給に必要不可欠。



獣医事に従事する女性は約3割。20～30代は、約半数が女性獣医師。12年前と比較すると、女性獣医師は約1.7倍に増加している。

資料：農林水産省調べ

割。安全で良質な畜産物を安定供給するために、農林水産省では、産業動物獣医師の育成・確保対策を行っています。

具体的には、産業動物獣医師として就業を志す獣医学学生や高校生に修学資金を貸与したり、獣医学生の現場での実習、若手の獣医師や中堅の獣医師を対象にした研修などを実施しています。

また、離職した女性獣医師が働きやすい環境作りにも取り組んでいます。結婚や子育てを経た女性の産業動物獣医師の職場復帰・再就職にあたっては、最新の知識の習得や獣医療技術の向上を図るための研修を実施したり、雇用者の理解を深める講習を行っています。

酪農・肉用牛経営の就農相談に役立つ冊子を作成

公益社団法人中央畜産会では、酪農・肉用牛経営の参入を希望する女性や、他職業経験者の方々の支援のための冊子を作成しました。

『牛飼いになりませんか?』の2冊は就農までのステップを紹介。『牛肉を作る仕事』『牛乳を作る仕事』は具体的な仕事の内容を、写真やイラストを交えて分かりやすく説明しています。詳しくはWEBページをご覧ください。

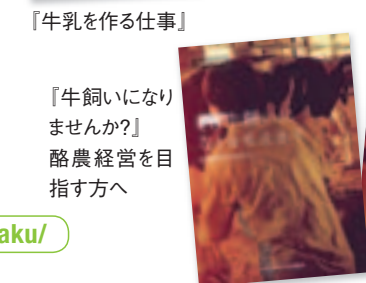
<http://jlja.lin.gr.jp/hataraku/>



『牛乳を作る仕事』



『牛肉を作る仕事』



『牛飼いになりませんか?』酪農経営を目指す方へ



読者の声

読者の皆さまから寄せられた
『aff(あふ)』6月号への
ご意見・ご感想を紹介します。

「大豆」では、生産から歴史まで分かりやすく書かれていました。日本人にとっては切っても切れない食品ですが、苦手な子どもも多いです。おいしく料理して、さらに栄養的に優れた食品であることなども伝えて、豆をアピールしていきたいです。(50代・女性)

大豆製品について知り、納豆など多くのものに魅力を感じ、とても勉強になった。(30代・男性)

「雑豆」は、あまり知らなかったので参考になりました。見た目も味も多彩で種類も豊富で、和洋菓子にもたくさん使われていて、食生活を変化あるものしてくれているんですね。栄養的にも良質なたんぱく質がとれるのは、有難いことです。(60代以上・男性)

お豆が大好き。栄養が豊富で、煮ても炒ってもすりつぶしても食べられる、七変化が魅力的です。そしてなんととってもあの球体！コロコロンとしていて、見ているだけで癒やされます。(40代・女性)

「ニッポン麺探訪」の伊勢うどんがよかったです。ぜひ食べてみたくなりました。麺好きなので全国のおもしろ麺を紹介してほしいです。(60代以上・男性)

広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。



メールマガジンのご案内

大臣メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする『農林水産省メールマガジン』を毎週月曜日に発行しております。ぜひご登録ください。無料です。
<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN



NEWS-3

8月11日は「山の日」。 山に親しみ、恵みに感謝

2016年8月11日(木)は初めての国民の祝日「山の日」です。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」という趣旨で、平成26年5月23日に法律改正案が国会で成立し、16番目の国民の祝日となりました。

日本は国土の7割近くを山地が占める山の国です。日本人は古くから自然とともに生きてきました。「山の日」は山の恵みに感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継ぐことを銘記する日として制定されました。

第1回の記念大会は、長野県松本市上高地で開催されます。世界で初めてとなる「山」に関する国民の祝日は、国内外からの関心を集めています。



左／上高地のランドマーク・河童橋と梓川。
下／上高地・大正池から望む穂高連峰。



第1回「山の日」記念全国大会

開催日：平成28年8月10日(水)～11日(木)
式典会場：長野県松本市上高地および松本市内

8月10日【大会スタートイベント】10:00～(松本城公園)
【山に関する国際的な会議】12:30～14:00(あがたの森講堂)
【レセプション】15:00～(ホテルブエナビスタ)

8月11日【記念式典】～山に親しむ機会の創出と発信～
9:00～10:45(上高地バスターミナル)
【祝祭式典】～山の日誕生の祝祭と恩恵への感謝～
15:00～16:30(まつもと市民芸術館)

大会期間中【山の日誕生を祝う記念行事(体験、展示、トークショーなど)】
松本市街地(松本城公園ほか)、上高地(小梨平キャンプ場ほか)

<http://811yamanohi.org/>



NEWS-2

世界かんがい施設遺産を訪ねる 第3回



1965年ごろの久米田池の様子。



現在の久米田池の全景。

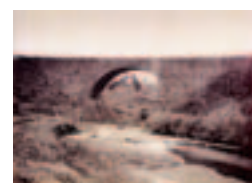
久米田池

【大阪府・岸和田市】

奈良の大仏建立に関わった僧・行基が、地域の人々と一緒に天皇に請願し、725年から14年の歳月をかけて完成させた。堤防は東南アジアとの技術交流により、粘土質と砂礫の間に木の葉を挟む「敷葉工法」を採用している。



現在の通潤橋。



1874年の通潤橋。

通潤用水

【熊本県・山都町】

四方を低地の河川に囲まれた地形の白糸台地。水不足を解消するために1855年に建設された。これにより水田面積は約3倍に増加。国の重要文化財である日本最大石造アーチ水路橋「通潤橋」をはじめ、日本固有の技術の集大成となっている。

上江用水路

【新潟県・上越市、妙高市】

用水路建設以前のこの地域は、収穫期までの水の確保が困難だったが、1573年から130年間におよぶ水路建設プロジェクトで高品質な米の一大産地が実現。難度が高い危険なトンネル工事だったが、高度な技術により誤差はわずかだった。



1931年頃の川上隧道(かわかみずいどう)。



水路建設の指導者は仏像になり、今でも崇拝される。

曾代用水

【岐阜県・関市他】

幕藩体制で統治が分断されていたため、干ばつ地帯でありながら大きなかんがい施設がなかった。農民自らが水路の建設を実施。岩盤掘削を「たがね」と「のみ」で行い、1669年に供用開始。荒れ地が新しい水田地帯として生まれ変わった。

現在の水路。



現在の入鹿池の余水吐(よすいばき・余分な水を放流する設備)。

「たがね」と「のみ」で行った岩盤掘削の痕跡。



1883年の入鹿池工事の様子。

歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設
世界かんがい施設遺産とは、かんがいの歴史と発展を明らかにすることで理解を高め、かんがい施設を適切に保全することを目的として、国際かんがい排水委員会(ICID)が認定するものです。最終回の第3回は、平成26年度に登録された通潤用水と、27年度に登録された4施設を紹介します。